

# 観望会スタイル

( 観望会の現場から )



2011年11月12日

大分天文協会

顧問 田中 千秋

TANAKA CHIAKI

<http://www.lcv.ne.jp/~kasugahi/tanaka/>

Email : [chiaki407@gmail.com](mailto:chiaki407@gmail.com)

## はじめに

最近、自分が天体写真撮影に出かける回数よりも天体観望会に出かける回数の方が多くなっていることに気づきました。いつのまにか回数が逆転してしまったわけですが、毎年、行動スケジュールをホームページに書き込んでいますので、わかるはずなので確認してみたら、数年前から既に逆転していたこともわかりました。

これは、仲間達との交流やいろんな会の活動の中で、このような形になってしまっているようです。

観望会の楽しさややりがいは、天文ファンとしてはある意味、天文家であることの冥利につきる行動ともいえるのではないのでしょうか。

しかし、やる限りには天体観望会とは何なんだろうか？観望にやってくるお客さんは満足しているのだろうか。何か間違えていないか。改善の方向はどこにあるのかなど常に自問自答を繰り返している自分に気づかされるのです。

理科離れにストップはかけられるか。子供たちはおもしろかったとってくれるかどうか。さらに自分たちは今回の観望会を納得して実行できたかどうかといったことを自らに問いかけているのであります。

## 満足度の高い観望会をめざす

観望会は実行することが最も大事なことです、だからといって、ただ開けばいいとか天体を見せればいいといった簡単なものではないことは読者諸君も同じ気持ちであろうと思います。そこで、観望会の内容を改善して、より充実したものにしていこう。あるいは、継続していくことが大事だといったことを真剣に考え、観望会に来る人が満足を得られることと、実施する私たちの方も充実した時間を過ごすことができるようにしていくことが大切だと思えるようになり、整理して考えてみました。

## 形態のことなる3つの観望会

今回は仲間との天体観望会を3団体ご紹介し、天体観望会の形態の違いからその特徴などをまとめてご紹介したいと思います。

なお、この内容は、以前に山形大学で発表し、さらに平成23年9月21日に大分に帰省した折、お集まりいただきました大分天文協会有志のみなさまにコンパルホールでお話しした内容がベースで、さらに、11月12日(土)には天文教育普及研究会関東支部大会(会場：埼玉県春日部女子高校)で発表した内容を基にして書き起こしたものです。

## 本物体験による感動

天体観望へ参加して天体を見る体験は、本物を視覚的に感じる(見る)感動体験であり、昨今のTVやゲームでの視覚的感覚とは別のものであると思います。

視覚的に本物を見ることに加えて、お話しや解説資料により裏打ちすることによって、より深く印象付けることになろうかと思えます。

知識欲に刺激を与え、リピート客になりうる要素を注ぎ込む(何人集まったかよりは…)

天体観望会では、参加した頭数より満足度が大切で、どうしたら喜んでもらえるか、感動を呼びかといったことを考えながら実施する必要があるかと思えます。

当然のことながら、事前申込による観望客とまちかど型での偶然に観望会に出くわすシーンでは、知識欲の違いもありますし、説明内容も一律とはいかないと思います。いずれ

にしても観望会開催側で、適切な説明により観望の感動をアップさせ、リピート客になっていただくという姿勢を持って対応することが大事だと思います。

### 組織づくりと人材育成

観望会は組織で行うことが基本ですが、こういった組織でも、人づくりはむずかしいのですが、そうはいつでも組織でのいろんな取り組みは、一部の人のみが動くのではなく、組織全体の力が必要ではないかと思われます。

観望会では組織力を生かし、多様な興味に応える対応と安全安心な開催など、組織の総合力が必要ですし、また、その力を発揮することが個人だけではできない力でしょう。

### 人を引きつける魅力づくり

参加者は、神秘的な月や星が見られる。天体望遠鏡の能力や主催者の行動に感動（場合によっては自分も主催者側になりたい！との思いを持たせられるかも）してくれることもあります。主催者はつねに、観望会の魅力付けのための工夫、努力を怠らないことが必要であります。一方、組織は、メンバーの技量から、「そんなに頑張るのっ！無理なく、無駄なく、ゆっくりと・・・」といった標語を掲げ、メンバーの一部の人々が暴走しないような、独善的頑張りは逆に仲間や組織を弱めるといったことも考える必要があります。

### 観望会を持続させる（サスティナビリティを持つ観望会の実施）

観望会の輪を広げていくことはとても重要です。人集め、他の組織との協調、経費の捻出など積極的に進めて観望会の度に少しずつでも技量アップしていくような意識は大事だと思います。

また、地域組織や役所の応援が得られるか、実施を進めていくと必ず社会的な役割が発生してまいります。横やりや要望も寄せられます。そうすると自治体などの組織に振り回されないか？振り回されることを利用してむしろ発展もありうるか？などの考察も必要になってまいります。

組織では観望会に際してもメンバーに役割を与えるといった、ある種の義務化が生じてまいります。しかし、積極的に使命感を実感している者は力を発揮していきますが、義務化の重圧感から組織を去っていくものも出てまいります。リーダーの技量が問われるところです。

### 施設よりマネジメント

観望会では施設や機材もとても大事といえますが、メンバー同士で考え実行するマネジメントがとても重要です。

有効な広報（HPの活用、新聞、広報誌、ポスター、チラシ、口コミ作戦など）、スタッフの連携、工夫などにより、観望対象の連携、星座案内などの組み合わせに配慮し、顧客満足度の増大を図り、曇ったり、雨天の時でも満足度を上げる工夫（星座や天文、宇宙の話題、星野写真などの投影による「曇った日のプログラム」の実施）も必要と考えます。

また、安全管理の行き届いた観望会を開催し、保険さえ入れればいいという考えは安易で、基本は、事故の起きにくい観望会の開催、スタッフの配置が大切であります。さらに観望会なのに星を見ることができないスタッフ（駐車場案内、整理係、受付、保安要員）も含めて達成感を味わえる配慮。リーダーの役割、話し合い、親睦、仲間意識、周りの人間を次々と取り込んでいけるウェルカムな意識、オープンな組織が望ましいといえます。

一方、機材の工夫、活用にも工夫をこらし、観望用の望遠鏡は高性能のものが必要かどうかといった議論や自由に使える望遠鏡の設置などによる体験型の推奨も考えるといいと思います。

観望会は娯楽か、勉強か？・・・あなたの答えは？

観望会参加者は娯楽的な意味合いを持って参加することも多いと思われます。

学習機会ととらえている参加者も多いのですが、実施者はどこまでどう対応するのか。

これらもただ実施するだけでなく、一応、会の中で議論して対応を考慮する必要があるかと思えます。

これからも観望会を続ける3団体

今回、私の加わっている会の観望会をベースに紹介してきましたが、こども星見隊のモットーは、「ムリをしない活動（継続のために）」であります。

鴨川市に天文台をつくろう会では、目的は「天文台をつくりたい!」ということですが、その活動のいっかんとして、観望会や講演会などの運動をしているということになります。

関東天文協会神津牧場天文台では、天文台を活用する一環として、広く市民に開放する姿勢の表れとして、公開をおこない、会活動としても活発化させる要因になるとのメリットを認識しての活動となっています。

科学する心に結びつけられるか？

天体観望会は、理科離れの昨今の子供たちに理科の面白さ、楽しさ、また重要性を認識してもらうために、とても重要な要素を含んでいると思います。

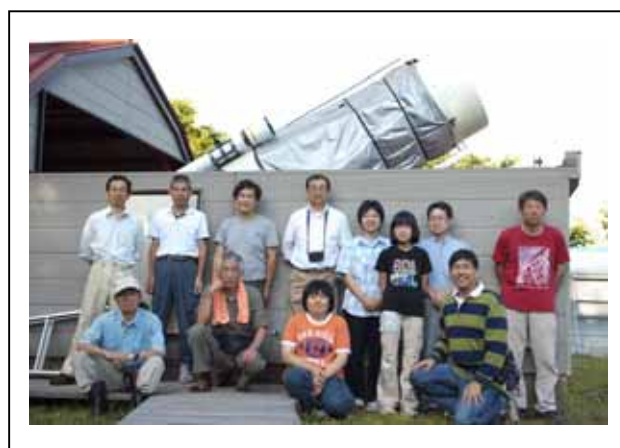
科学する心を持って、本物体験ができる天体観望会は、テレビやインターネットなどの2次元の世界で体験したような気持ちになることが多い（疑似体験やシミュレーションの世界）媒体がはびこっている世の中において本当の本物による感動体験ができる正真正銘の貴重な行為だといえるのです。

このことから、天体観望会を継続することが重要との認識を持っています。

みなさまにもご賛同いただき、天体観望会がさらに盛んになることを期待します。



つくろう会太陽を見る



上) 神津牧場天文台と76センチ反射赤道儀

左) こども星見隊プラネタリウム会



# 天体観望会スタイル

団体名・目的など	観望会スタイル	場 所	参加対象者及び参加人数など
<p><b>関東天文協会</b></p> <p>76センチ反射赤道儀を使用、維持管理していく</p> <p>天文の普及活動</p> <p>星空のコミュニケーターとして天体観望会や天文講習会などを実施する</p> <p>その他メシエマラソン、企画観望会天体写真撮影会などを実施</p>	<p>一般観望会</p> <p>天文台に設置の天体望遠鏡で天体観望する</p> <p><b>施設公開タイプ</b></p> <p>天文台施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・76cm 反射</li> <li>・25cm 反射</li> <li>・15cm 双眼鏡 など</li> </ul>	<p><b>神津牧場天文台</b></p> <p>(群馬県甘楽郡 下仁田町南野牧)</p> <p>財団法人神津牧場の敷地の一角に約2000㎡を借りて設置、運営(標高1,130m)</p>	<p>天文ファン、牧場来場者など</p> <p>一般観望会は公開日なので誰でも入場可能</p> <p>定員は定めていないので、天候が悪いと10名程度、天気が良いと30名程度の参加者となる</p>
<p><b>こども星見隊</b></p> <p>牛久自然観察の森の里山自然を活用し、子ども達に星に関する知識や楽しさを天体観望会などを通じて体験してもらう</p>	<p>こども星見隊(親子天体観望会)</p> <p><b>拠点タイプ</b></p> <p>牛久自然観察の森を拠点に森のバットの原で天体観望会を行い、ネイチャーセンター(建物の中)で受付や講義などを行う</p>	<p><b>牛久自然観察の森</b></p> <p>(茨城県牛久市 結束町)</p> <p>牛久市立牛久自然観察の森ネイチャーセンター及びバットの原を拠点に活動。施設管理は指定管理者NPO法人うしく里山の会が行っている</p>	<p>小学校4～6年生の児童とその保護者(20組40名の定員制)</p> <p>開催日の約1か月前から観察の森で予約受付(先着順)を行う</p>
<p><b>鴨川市に天文台をつくらう会</b></p> <p>全国で千葉県だけにはない公開型天文台を鴨川に建設することを目的とし、講演会や観望会などを実施</p>	<p>まちかど星空観望会</p> <p><b>まちかどタイプ</b></p> <p>千葉県房総半島にある安房鴨川駅前ロータリーで星空観望会を行う</p>	<p>JR安房鴨川駅前西口ロータリー</p> <p>鴨川市から広場の占用許可を受けて使用</p>	<p>バス待ち、電車待ち人待ち、通行人など</p> <p>最近はおコミによりわざわざやってくる人もいます。</p>



会の名称 開催回数(年間)	広 報	内容要旨	備 考
<b>関東天文協会</b> 一般観望会 2回 /年 ほかに年間に メシエマラソン 1回 企画観望会 2回 (親子体験教室) 講演会 3回 天体写真講習会 2回	ポスター  インターネット  企画観望会は神津 牧場のイベント として行う。広報 等も神津牧場	76センチ反射望遠 鏡等での天体観望会  光害の少ないところ での星空体験  宇宙や自然の不思議 体験	神津牧場天文台は関東 天文協会が設置し運営 している私立天文台。 会員の天文研究のため の施設であるが、天文 普及にも役立てよう と、年間の観望会計画 などを年次総会で決め て公開している
<b>こども星見隊</b> こども星見隊 (親子天体観望会) 2回 ほかに スターウォッチン グ 2回  お月見会 中秋の名月に開催 日、月食観望会な ど	牛久市報  地域コミュニティ 紙  牛久自然観察の森 掲示板(ポスター)  牛久自然観察の森 のHP(ホームページ)に掲載	こども星見隊メンバ ーの天体望遠鏡を持 ち寄って使用 観察の森バツタの原 (芝生の広場)で実 施するが、雨天・曇 天のときも観察の森 のレクチャールーム で小型プラネタリウ ムやクイズ、スライ ド投影などを楽しむ	開園20周年を迎えた 観察の森は、指定管理 者りNPO法人うしく 里山の会が運営して おり、その会の分科会的 な役割としてこども星 見隊がある。 観望会の主催は観察の 森、実際はボランティア グループこども星見 隊が実施する
NPO 活動団体 <b>鴨川市に天文台を            つくろう会</b> まちかど観望会 毎月実施(上弦の 月のころ)12回  主催観望会 鴨川天体観測所を 借りて実施 2回 その他天体写真講 習や指導者講習会 などを実施 2回	まちかど観望会は 特に広報はしてい ない  その他のイベント はHPやポスター にて告知	主に月や惑星を見せ る。 会場では星空だより を配布 光害の多いところな ので、星雲星団は見 えにくい。したがっ て、対象を限定して 観望してもらう	つくろう会では、公立 天文台の建設をめざ し、市民まつり(シー フェスタ)に参加した り、城西国際大学と「は やぶさ講演会」を共催 したり、「国立天文台ハ ワイ観測所からの遠隔 授業(地元中学校で開 催)」を実施するなど多 岐にわたる活動を展開 している